

## 会議録

会議の名称	平成24年度 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成24年10月22日（月曜日） 午後7時00分から9時00分まで
開催場所	西東京市 保谷庁舎1階 会議室
出席者	委員：赤澤委員長、有賀副委員長、石原委員、近辻委員、中平委員、西田委員、武藤委員、山崎委員、山本委員 事務局：林文化振興課文化振興係長、工藤文化振興課文化振興係主査
議題	1 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録について 2 計画前期の取組実施報告について 3 その他
会議資料の名称	1 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録 2 計画前期の取組について（訂正版） 3 計画前期の取組実施報告について 参考資料 第12回西東京市民文化祭プログラム 参考資料 下北沢一番街商店街視察に係る資料一式（視察不参加者のみ）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>○委員長： 本委員会に出席している委員は8名であり、定足数を満たしているので、議事を進めることとする（会議開催後1名の出席者あり）。</p> <p>○事務局： 10月1日付け異動の挨拶。初参加委員への依頼状交付</p> <p>委員： 初参加委員自己紹介</p> <p>○事務局： 配付資料の確認</p> <p><u>議題1 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録について</u> 事務局から修正箇所の説明</p> <p>○委員各位より承認された。</p> <p><u>議題2 計画前期の取組実施報告について</u> 事務局から資料3に基づき説明</p>	

(各委員の感想、意見)

(伝統文化講演会について)

○委員：

市報の案内の仕方が上手くいかず当初申込みが少ないと思われたが、最終的には40人近くなったため2回に分けて実施することになった。初めて参加した人にとっては分かりやすかったと思う。アンケートで実施してほしいという内容は実際にはすでに行っているのだが、情報が伝わっていないようだ。

(損保ジャパン東郷青児美術館対話型鑑賞会視察について)

○委員：

スタート前に美術館から今日は作品を「見て」「感じて」「考えて」「聞いて」「話す」ことが大切だという説明があった。子供たちがまずじっくり絵を見る時間を取り、その後絵に描かれているものについて、男の人か女の人か、何が書いてあるか、どんな色が好きか、というようにその絵の感覚を市民ボランティアが小学生に聞いていた。絵画に触れ合うという感じだった。中学2年生ぐらいになると題名についても含めて具体的な内容にも触れるということだが、今回は小学4年生ということもあって絵に親しむ、絵を好きになってほしい、という感じだった。

○参加しなかった委員の質問：

ゴッホのひまわりについて子供たちの反応は。  
ボランティアはどのような方か。  
ボランティアは男性女性どちらが多いか。

○事務局：

ゴッホの絵もそうだが、子供たちは明るい色を好んでいるようだった。  
ボランティアはNPO法人のARDA（特定非営利活動法人芸術資源開発機構）で養成した方々である。  
女性が多いが男性もいた。

(下北沢一番街商店街の視察について)

○委員：

ペナント2枚を背中合わせにして街路灯に設置していた。アクリルの絵の具を使用してペナント1枚1,500円ぐらい。商店街の費用は30万円ぐらいで実施している。若手の活気のある青年部の部長さんであった。商店街を盛り上げていく活力を感じた。

商店街が良くやっていると思った。

子供と商店街の組み合わせが非常に上手くいっている。西東京市の場合は、学校と市民の活動との結びつきが難しいような感じを受けている。

欧米の子供は大きなキャンバスに大きな絵を描くが日本の子供は小さく描いてしまうというテレビを見て考えついたといったところが良い。アーティストのナガイさんの派遣も良い。当初テーマを決めずに自由に書くところから始まったことも良かったと思う。ペナントの色使いも良かった。

8回目からアーティストの派遣があって絵が良くなったのではないかと思う。商店街

のねらいが子供の作品を広く市民に見てもらおうというのであれば、1校の展示期間を短くして多くの小学校の作品を展示できれば広く市民に見てもらえるのではと思った。

商店街の人たちの売り上げに即結びつかなくてもやるんだという言葉に感動した。自分たちのまちは自分たちでという気持ちが良い。街に子供の絵を飾って家族が見に来たりして街が賑やかになるのは良いと思った。

(フューチャーセッションの実施について)

○委員：

そもそもきっかけは西東京市内の文化の情報をどうやったら皆で共有できるかというところから始まった。そこで、何ができるか考えていく中で、文化活動をしている人や思いのある人たちに参加してもらい、直接話ができる場を作って、各自が考えている文化を話し人のつながりができていくことが大切であると考えた。人のつながりで、文化がさらに盛り上がるため、一人一人が主体的に何ができるかを考えていくイベントとしたい。最初にあらかじめ依頼した文化活動者7人に文化について各5分程度話してもらい、参加者が5人から6人ずつグループに分かれて最初の話をつなげに文化について話し合ってもらおう。公募市民以外に地域と連携した文化活動をしている人や文化に関わる思いをお持ちの人を招待者として30人程度考えている。今回だけではなく、今後もいろいろな人に参加してもらいながら、西東京の文化を考えていきたい。

(アスタ2階センターコートでのミニコンサートについて)

○委員：

通りすがりの人が立ち寄って落ち着いてしっかり聴いているようだった。いいレベルの演奏で成功といえるのではないかな。

ミニコンサートという割には3時間は長過ぎたのでは。

西東京フィルハーモニーオーケストラは小学校等でアウトリーチを毎年やっている。今回初めて参加した団員もいたが、やって楽しかったと言っていた。アマチュアは人前の演奏が楽しいので、他の場所でもやる機会があったらどどん声をかけてほしい。パネルもきれいにできているので、これからも利用し、文化芸術振興や計画を市民に伝えていくべきである。文化的なことをやっているんだという香りがすると思う。計画の実行は大変だと思うが、いろいろやるべきだと思う。

○委員：

文化芸術振興計画の展示は内容が細かいので読んでいる人はいたのか。

掲示物同様の内容を概要版として配布していたので展示が見にくい人はそれを読むのでは。

アスタでのコンサートは内容がクラシック中心だったので、もっとふさわしい環境ですべきではなかったか。

お店の声や時計の時報の音が気になった。

ああいうスタイルもあっても良いが。計画策定記念のPRだったらもっと正式な場所でもやったほうが良いのでは。

コンサートをする場所はどちらも必要だと思う。こもればホールでやったら、通りすがりで素晴らしい曲を聴くようなことはなかったと思う。

○事務局：

イベントの主旨としては、すばらしい演奏で足を止めてもらって計画をPRしたいという思いがあった。

いろいろな場所で計画の内容をお知らせすることが大切であると考えている。

小学校での演奏会も含めて計画をPRしている。最終的には、1月6日の子供たちのオーケストラ体験ワークショップのまとめ発表会として、シンフォニーコンサートをこもれびホールで開催予定である。

(小学校へのアウトリーチ演奏会について)

○委員：

小学生80人は希望者なのか。

弦楽四重奏は小学生には難しいと思うが、子供たちにも分かりやすく飽きずに聞くことができたか気にかかる。

○事務局：

5年生全員を対象とし、授業の一環として実施した。

弦楽四重奏を学校から要望され実施した。

楽器の説明もあり、曲も30分だったので子供たちは飽きずに聞いていた。音楽鑑賞経験者もいて真剣に聴いていて、アンコールもあった。

(その他)

○委員：

イベントについて委員会でアイデアを出し、意見交換していきたいと思っている。

イベントの具体的日程の情報を委員会に速く出してほしい。

今後の予定があれば出してほしい。

○事務局：

イベントの具体的日程の情報提供については、学校、演奏家との日程が中々決まらないので遅くなってしまった。

今後のイベント日程は決まり次第委員会でお伝えしていく。

### 議題3 その他

今後の文化振興課の主なイベント実施予定について

○事務局：

文化祭実施中10月20日～11月15日。西東京ジュニアオーケストラに子供たちのオーケストラ体験ワークショップの参加者も加わって、10月28日こもれびホールにて中間発表。市民まつり11月10日、11日。11月25日フューチャーセッション、11月26日碧山小アウトリーチ。1月6日シンフォニーコンサート。2月17日活動団体とのディスカッション。

○委員：

文化祭について文化祭実行委員長から概要説明

○事務局：

次回は12月11日（火曜日）7時から。会場等詳細は開催通知でお知らせする。

○委員長：

10月、11月は何かと文化的な行事が多い中、本日も朝早くからの見学、またイベント参観、中には出演と各委員が分担してやっただいていろいろとご苦勞おかけしたことを改めて御礼申し上げます。

閉会